

令和6年11月23日(土・祝)に第41回教員懇話会を開催しましたので、この場を借りてご報告いたします。この懇話会は、卒業生同士の情報交換の場であると共に、教員を目指す現役学生にとっても、教育の場で活躍する先輩方との交流の場でもあります。昨年に引き続き、世話人会で協議を重ね、対面とオンラインのハイブリット形式で開催し、対面12名・オンライン11名の計23名が参加しました。

当日は、「探究」をテーマとし、3名の方にご講演をいただきました。犬塚奈保子先生(平21・環境)より「探究で育てる資質・能力」、続いて太田和広先生(昭60・化学)より「SSH研究開発指定校での探究的な学び」、最後に梶葉駿介先生(平28・情報)より「数学における探究的な学び」についてご講演をいただきました。

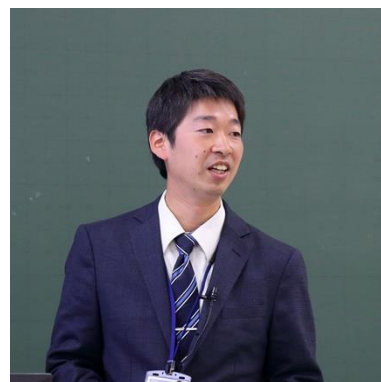
犬塚先生からは、科学的・数学的リテラシーについては、我が国は高い水準にあるが、意欲が低く、授業と実生活の関わりが低いとの理由から探究が重視されている、とのお話を、諸データをもとに解説いただきました。探究で育てるべき資質・能力は、3つの柱(学びに向かう力・人間性等、知識・技能、思考・判断・表現)をバランスよく育成することが大切であり、それには探究は切っても切れない関係にあるとのコメントもありました。太田先生からは、SSH校の特徴・特例、経験に基づく興味深いお話を



いただきました。先生が勤務されていたSSH校でのクロスカリキュラム(教科横断型授業)や「課題研究」の評価の難しさ、探究活動を行う上での研究倫理教育の必要性など、現場の教員でも悩む問題を、実体験をもとにご講演いただきました。私は今年初めて週2時間で3年理系の「探究生物(総合的な探究の時間)」を担当していますが、高校現場における探究に対する戸惑いや負担はかなりのもので、それに対する方向性、現状の課題を含め具体的に示し、先生方とそれを共有できたことは、探究のあり方を考える良い機会になりましたし、高校教員の皆様方にとって大変参考になりました。梶葉先生からは、ご自身が担当されている探究の授業について、実践例を交えながら紹介していただきました。生徒に調べ学習させる際には、前提知識のない生徒への説明を念頭に、調べた内容だけでなく、全体像を伝えることの大切さを忘れないように授業を展開しているとのコメントをいただきました。探究のテーマは難しいものにする必要はなく、犬塚先生からもあったように、あくまでも実生活で疑問に思うような身近なものにするとよいと、改めて認識することができました。どの講演も、現場での実践、課題を含めその重要性を具体的に示していただけただけは大変参考になり、貴重な機会となりました。



理科や数学に対する意欲が国際的に比較すると低いとされる我が国では、探究こそが意欲を掻き立てる要となります。探究は、内容の特性上、我々理科・数学の教員が先導していかなければならない科目であると考えます。私を含め、東邦大理学部卒業生が理学部出身だからこそできる強みを活かして、この「探究」を牽引していかなければならない、と改めて気を引き締めることができた懇話会でした。



最後になりましたが、今年度の懇話会開催にあたり、事務局をはじめ鶴風会の皆様には大変なご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。また、教育現場で活躍しておられる卒業生の皆様方には、引き続き会の発展にご協力賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

